

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 19 日現在

機関番号：32707

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26381059

研究課題名（和文）小学校区を単位とする地域社会の文化構築に関する歴史的研究

研究課題名（英文）A historical research on the cultural construction of local community based on elementary school district

研究代表者

多和田 真理子（TAWADA, Mariko）

相模女子大学・学芸学部・講師

研究者番号：00646268

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：長野県飯田市内の小学校を対象に、学校と学区の地域構造を歴史的に明らかにするため、対象校が所蔵する歴史資料の悉皆調査の成果を活用し、とくに明治期以降の学校日誌を中心とする文書の読解および分析作業を行った。学校教員・衛生・会計・学校運営・カリキュラムなどのテーマを設定した研究を進めた。

また、小学校卒業後の進学先となる中学校が地域構造に与える影響を考慮し、中学校所蔵文書調査に着手した。昭和初期の小学校高等科に関する歴史資料のほか、新制中学校草創期以来の文書が多く残されていることに着目し、今後の継続的な研究の基盤を作った。それに関連して、村役場文書、県行政文書などの調査を実施した。

研究成果の概要（英文）：In order to shed light on the regional structure of schools and school districts, this study uses the results an exhaustive survey of historical materials held by the target schools, focusing on elementary schools in Iida city, Nagano Prefecture. Specifically, we carried out a reading and analysis of the documents. Also, considering the effects that the junior high schools students attend after leaving elementary school have on local community structure, we also embarked on a survey of the documents held by junior high schools. As well as historical materials relating to the upper elementary schools of the early Showa period, it came to our attention that there were many documents dating from after the creation of the new system junior high schools, which will form a basis for continued research. With regard to this topic, we carried out a survey of documents from sources including village government offices and the prefectural administration.

研究分野：社会科学

キーワード：教育史 地域史 学校史 学校日誌 小学校区 中学校 学校資料保存

1. 研究開始当初の背景

1872(明治5)年に制定された「学制」は、旧来の文化・教養による共同意識を断ち切り、学校を核とした新たな「文化と教育の共同体」(佐藤学)を形成しようとする試みであった。だが、小学校設置の実際はそれぞれの地域にゆだねられ、その土地の実情に応じて、旧来の村落共同体と絡み合いつつ進められた。

教育史研究においては、「学区の公共性」(三上和彦)をめぐる議論の中で、学校ないし教育のあり方への、地域共同体の関与が指摘されてきた。木村元らは、「生活世界から距離を持つ固有な時空間」である学校を、地域社会の人々が人間形成の場として受容し「拘束されながらそれを利用していく」過程を、教育実践の様相から明らかにした。久富善之と木村らの研究では、小学校のあゆみと地域社会のあゆみとを「不可分に重なり合ったもの」と捉え、小学校所蔵文書を用いて地域の変化を通時的に描き出した(JSPS 科研費 18330178「日本の学校風土・慣習の形成・展開と現代的再編課題 その社会史・社会学的研究」)。

いっぽう地域史研究の分野では、小学校を「磁極」として形成される社会=文化構造に着目する視点を吉田伸之が提示した。吉田は「学区共同体」を、市民の地域アイデンティティの核心を形成する決定的なものとして捉えており、その歴史的形成過程と現代の様相について明らかにすることの重要性を述べている。

小学校を社会=文化の中核として捉え、そのあゆみを示す史料群となる小学校所蔵文書の悉皆調査を基盤とした地域の全体史研究を試みたのが、田嶋らによる研究である(JSPS 科研費 22330219「飯田下伊那における学校史料と地域社会に関する基盤的研究」)。悉皆調査により小学校所蔵文書の中に地域に関わる多様かつ多層的な情報が含まれることが明らかとなり、学校創設当時の小学校運営と町村行政との未分化およびその変容過程が示されたが、通時的な分析としてはまだ途上である。また、地域把握の方法についても、全体史というマクロな視野を持つには、小学校区をさらに細分化させ「町」や「組」レベルのミクロな分析が必要との課題意識を得た。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記先行研究の課題意識をふまえて、小学校所蔵文書の悉皆調査にもとづく分析を深め、小学校区を単位とする地域社会の文化構築の様相を明らかにすることである。

また、先述した田嶋らの研究により明らかになった、小学校所蔵文書のもつ多様性と多層性について、さらにその具体的な様相を明らかにするためには関連する地域史料を参照しての作業が必須であると認識した。そこ

で、対象地域の行政文書などの関連史料を探索し、所在状況の調査および必要に応じてのデータ収集を行うこととする。

さらに、これらの研究過程を通じて、学校所蔵文書がもつ歴史的価値を明らかにし、地域にそくした形での保存管理や研究利用の方法を確立したいと考える。そのために、史料翻刻などの作業を併行して行うこととする。

なお、上記研究の対象は、長野県飯田市立追手町小学校、同座光寺小学校の所蔵文書である。これは、先述の田嶋らの研究成果を引き継ぐものである。

3. 研究の方法

(1) 小学校所蔵文書の調査分析

先述した田嶋らによる悉皆調査において、長野県飯田市内の小学校2校について、合わせて約11,000点の史料の所在を確認し、約600点の史料についてデジタルカメラ撮影を行った。本研究においてはその成果を活用し、地域にそくした個別テーマを模索しつつ学校日誌を中心とした史料の分析・読解を行う。

(2) 関係史料の所在調査・収集

上記(1)の作業を進めるにあたり、史料内容の補足や比較検討において必要な範囲で、行政文書や地域史料、学校・教員などに関連する資料の情報を収集する。

4. 研究成果

(1) 小学校所蔵文書の調査分析

飯田市内小学校所蔵文書の撮影データ約600点につき、小学校およびその学区の地域構造を明らかにするため個別テーマを設定し分析作業を進めた。設定したテーマは、教員の履歴や資格、学校衛生の変容、会計簿にもとづく学校教育活動、学校運営の具体的方策などである。その成果を個別論文の形で公表するとともに、研究分担者・連携研究者間での情報共有を行い、相互の史料分析作業の深化を図った。

先述の田嶋らによる小学校所蔵文書の悉皆調査で得た、学校関係史料の多様性と多層性という特徴をふまえて、それらの史料情報を相互補完的に把握するため、学校日誌を基礎史料と位置づけ、明治期を中心に翻刻を進めた。1873(明治6)年以降のほぼすべての年度にわたり日誌が残されており、記録としての重要性が高いと考えたからである。この作業は上記の史料分析と併行して実施した。

(2) 関係史料の所在調査・収集

中学校所蔵文書調査の着手と進展

地域の社会=文化構造に学校が深く関与するひとつの側面は、「人づくり」にある。その点からいえば、対象地域における中等教育への接続に関しても調査を進める必要がある。この認識により、本研究における調査対

象である追手町小学校の学区に重なり、卒業生の多くが進学する飯田東中学校について、史料調査を継続的に実施した。また、並行して史料の分析を進め、個別論文を発表した。

県行政文書調査

長野県立歴史館には、明治初期以降の長野県政（合併前の筑摩県を含む）に関する行政文書が大量に保存されている。学校所蔵文書の調査分析に関連する史料の閲覧と一部のデジタルカメラ撮影を実施した。とくに、明治期以来の学校設置願の書類が膨大に残されており、学校の設置運営のみならず学校衛生など多様な観点からの分析が可能であることが確認された。

また、明治期の小学校における教員構成に着目する中で、師範学校における女性教員養成制度の確立過程を調査するため、長野県議会図書室に保存されている、明治期の長野県議会議事録の閲覧・撮影を行った。これらの史料については、今後、県の教育政策の様相を知るうえで重要な情報を多く含んでいると思われる。

町村関係行政文書調査

学区と行政との関連を分析するため、町村議会文書の探索および収集、読解作業に着手した。旧座光寺村関係文書の中に、明治初期の村寄合から町村制下における村議会記録までの史料が網羅的に残されており、撮影データを収集し分析に着手した。

とくに明治中期までの記録においては、町村運営に関わる人々の発言から教育観・学校観をよみとることができ、教育史的にも史料の価値が高いと判断できる。

(3) 学校史料の保存・活用に関して

本研究を進める中で、学校所蔵文書のもつ多様性と多層性じたいが、学校史・教育史のみならず地域史研究における史料的価値を有していること、にもかかわらずこれまで学校所蔵文書の体系的な保存・活用に向けての取り組みが少ないことが把握された。そこで、本研究の基盤となる悉皆的な現状記録調査の方法論と、実践における課題について報告した。

近年、学校史料の収集・保存を、学校が資料室などで行う場合のほか、自治体などが包括的に実施している事例もみられるようになってきており、そうしたアーカイブズ研究との関わりにおいても重要な視点を提起した。

(4) 成果の位置づけと、今後の展望

本研究の独自性である、学校所蔵文書をひとつの史料群として捉えることによって地域の全体史を描くという研究課題を共有しつつ、個々の史料をていねいに検討することで、個々の「町」「組」レベルのミクロな分析を行うことじたいは着々と進展している。個別論文による成果も蓄積されている。また、本研究を遂行する中で、新たに調査を実施し

た史料群について、多様な視角からの分析が可能であり、今後の研究にとって重要な意味をもつことが確認された。

ただし、分析作業の多くは途上にある。史料群が膨大で、多様性をもつがゆえに、地域にそくした分析テーマの設定に時間がかかったことなどが理由に挙げられる。これらを継続的に進展させていきたい。

また、研究期間内において、史料の読解・分析に注力したため、分析結果だけでなく全体的な成果の公開性という点においても課題が残る。学校日誌をはじめとする史料の翻刻を進めてきたが、個人情報扱いなど、要検討事項がまだ山積しており、期間内の公開や、研究者・市民による活用に資する環境の整備にはいたらなかった。

今後は、史料分析を継続しつつ、研究者だけでなく地域に対して広く成果を公開する機会の充実に向けて取り組みたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10 件)

多和田真理子「明治期の師範学校における女性教員養成制度の確立 長野県の事例より」『子ども教育研究』第 9 号、2017 年、査読無、pp.63-72

田嶋一「1920 年代における青年たちの自立への希求と自由大学運動」『國學院大學教育学研究室紀要』第 51 巻、2017 年、査読有、pp.1-35

木村元「生きられた学校と近代学校批判」『近代教育フォーラム』25 号、2016 年、pp.86-94

大西公恵「1950 年代初期における職業・家庭科のカリキュラム編成 長野県飯田市立飯田東中学校の事例を通して」『教育と社会 研究』第 26 号、2016 年、査読有、pp.91-102

田嶋一「近代日本における『教育』概念の成立過程」『國學院雑誌』第 117 巻第 8 号、2016 年、査読有、pp.1-14

瀬川大「長野県における中等学校連合運動会の成立」『信濃』第 68 巻第 7 号、2016 年、査読有、pp.1-18

多和田真理子「教育学研究における『個人情報保護』と『固有名』認識」『子ども教育研究』第 8 号、2016 年、査読無、pp.63-72

田嶋一「啓明会の教育運動と農民自由大学の構想 青年の自立と教育文化」『國學院大學教育学研究室紀要』第 50 巻、2016 年、

査読有、pp.3-20

大西公恵「新制中学校設立初期における学校経営と生徒指導 飯田東中学校の教科教室制を通して」『教育と社会 研究』第25号、2015年、査読有、pp.55-65

多和田真理子「『学制』期小学校における近代化の過程 筑摩県飯田学校を事例として」『國學院大學教育学研究室紀要』第49号、2014年、査読有、pp.13-24

〔学会発表〕(計 5 件)

多和田真理子「明治期における女性教員養成について 長野県の事例より」相模女子大学子ども教育学会、2016年9月3日、相模女子大学(神奈川県・相模原市)

多和田雅保「神奈川県資料保全ネットワークの方向性について」全国史料ネット研究交流集会、2016年3月19日、郡山市市民プラザ(福島県・郡山市)

多和田真理子「学校所蔵資料の保存と研究利用について」日本教育史学会例会、2015年11月28日、立教大学(東京都・豊島区)

木村元「戦後の学校の展開と人づくりの課題」教育目標・評価学会第26回大会(招待講演) 2015年10月31日、京都教育大学(京都府・京都市)

木村元「戦後社会・学校・教育学 近代教育学批判の位置をめぐる」教育思想史学会シンポジウム、2015年9月10日、慶応義塾大学(東京都・港区)

〔図書〕(計 4 件)

神奈川県資料保全ネットワーク編(多和田雅保、多和田真理子ほか)『地域と人びとをささえる資料』勉強出版、2016年、執筆部分 pp.3-16(第1部第1章「資料ネットの方向を問い直す」多和田雅保)、pp.137-153(第2部第3章「地域における学校史料」多和田真理子)

飯田東中学校編(大西公恵ほか)『飯田東中学校七十年史』飯田東中学校、2016年、執筆部分 pp.11-43(第1章「飯田東中学校のめざしてきたもの」)

田嶋一『少年と青年の近代日本人間形成と教育の社会史』東京大学出版会、2016年、450

木村元『学校の戦後史』岩波書店、2015年、197

多和田 真理子(TAWADA, Mariko)
相模女子大学・学芸学部・講師
研究者番号：00646268

(2)研究分担者

木村 元(KIMURA, Hajime)
一橋大学・社会学研究科・教授
研究者番号：60225050

西島 央(NISHIJIMA, Hiroshi)
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号：00311639

瀬川 大(SEGAWA, Dai)
日本女子体育大学・体育学部・准教授
研究者番号：20637334

大西 公恵(Onishi, Kimie)
和光大学・現代人間学部・講師
研究者番号：70708601

(3)連携研究者

田嶋 一(TAJIMA, Hajime)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：90146738

多和田 雅保(TAWADA, Masayasu)
横浜国立大学・教育人間科学部・教授
研究者番号：10528392

6. 研究組織

(1)研究代表者